

E.(農)湯浦牧野組合(阿蘇町) - 平成14年度 モーモ一輪地切り実施地

設備

電柵設置延長: 3,000m

水場: 1箇所(ホリパイプ: 500m、エンジンポンプ: 1器)

自然湧水あり

放牧区

- ・ 1牧区: 森林境、帯状の牧区、幅員は約30m

放牧状況

- ・ 実施期間: 5/2~8/30
- ・ 5/2~5/20: 10~15頭
- ・ 8/20~8/30: 10~15頭
- ・ 8/30以降は牧柵を開放
- ・ 5月早い時期から入牧、輪地は2牧区に仕切り、食い詰め状況をみて移動。輪地をある程度食い詰めた後は、放牧区に入れた。

管理状況

- ・ 入牧中は牛の所有者が濃厚飼料を1日おきに与えるのとあわせて、各人が管理。
- ・ 水場は一応設置したが、自然湧水があるため、特に管理の必要はなかった。

入牧中のトラブル

- ・ 特にトラブルはなし。



・ 森林に囲まれる放牧地周辺に牧区を設定

牧野の概況：総面積：401ha うち野草地 330ha (82.3%) 牧草地 71ha (17.7%) 林地 0ha (0.0%)

組合の概況：入会権者数：68戸 うち有畜農家数 16戸 (23.50%) 資料：H10年阿蘇郡牧野および牧野組合現況調査

【効果】

草量の変化

- ・ 草丈 5 cm位に食い詰めた。

実施後の輪地切りの必要性

- ・ 輪地切りはしなくても良い程だったが、念のため通常の 1/3 くらいの幅で輪地切り、輪地焼きを行った。



・ H15.10月牧柵撤去後

【組合長の評価】

全体評価

- ・ 5月のはじめから強制的に入牧して 100%の効果があったと思う。面積の割に頭数が多いのでかなり食い詰め、シバの状態では野焼きも焼けないような状態になっている。省力化の効果としては予想以上に良かった。
- ・ 年配の人は狭いところに強制的に牛を入れることに抵抗があったようで、解放したあとでしか放牧なかった。
- ・ モーモー輪地でも輪地切りをしたが、今まで 10m位幅で切るところが 2 ~ 3 m幅ですみ、労力は 1 / 3 程度に軽減された。

今後の継続意向

- ・ 来年も続けていきたい。春早めの時期、草が柔らかい時に入牧して草を食わせれば茅株が残らないだろう。

その他

- ・ 現在、湯浦牧野組合は入会権者 30人、有畜農家 10件、うち現在後継者がいるのは 2件。放牧牛は全体で 100頭くらい。1軒 5 ~ 6頭に制限していた時期もあった。
- ・ モーモー輪地は湯浦牧野組合の中の有畜農家 7人で構成する簾(すだれ)牧野組合が管理する牧野で実施。簾牧野 7件人のうち後継者がいるのは今のところ 1件。簾牧野の野焼き・輪地切りは 7人で実施。これまで、ボランティアは導入しておらず、今のところ組合員で足りている。
- ・ 簾牧野は湯浦の中でも条件が良く、高齢で車を利用しない人は湯浦の牧野を利用せず、こちらに牛を引っ張って行って入れるというような状況。
- ・ 湯浦牧野(端辺の本牧野)では、輪地切りは入会権者全戸から出役して 30人で行う。野焼きも 30人で行うが、牛がいる農家は 2人ずつ出役する。
- ・ 端辺の牧野は約 400ha、採草地と放牧地は半々くらい。野草の採草地は冬場の餌と敷料として自家用に使っている。刈り取りが困難な谷間まで刈れば余るが、牛の頭数が多いため今のところ草が余るということはない。
- ・ 端辺の北部山林は水源涵養林であり、役場が一切の管理をしてきた。植林時の約束で蓄財は 6(役場)：4で配分、輪地切りは管理組合が役場から請け負って実施。

F . 扇牧野組合（南小国町） - 平成 13、14 年度モ－モ－輪地切り実施地

設備

電気牧柵設置延長

平成 13 年度： 4,000m（ソーラー： 2 器）

平成 14 年度： 6,000m（ソーラー： 3 器）

計： 10,000m（ソーラー： 5 器）

水場

平成 13 年度： 2 箇所

平成 14 年度： 2 箇所（ホリパイ： 2,000m、
I
ンポンポン： 2 台）

計： 4 箇所

放牧区

平成 13 年度： 2 牧区

幅員 100～200mの幅広い带状牧区

平成 13 年度： 2 牧区追加（計 4 牧区）

追加牧区は面的牧区

放牧状況

平成 13 年度実施期間： 6/22～**

6/22～7/25： 10 頭

7/25～**： 16 頭

平成 14 年度実施期間： 4 月下旬～10 月

1 回目 4/下旬～7 月 6 頭放牧

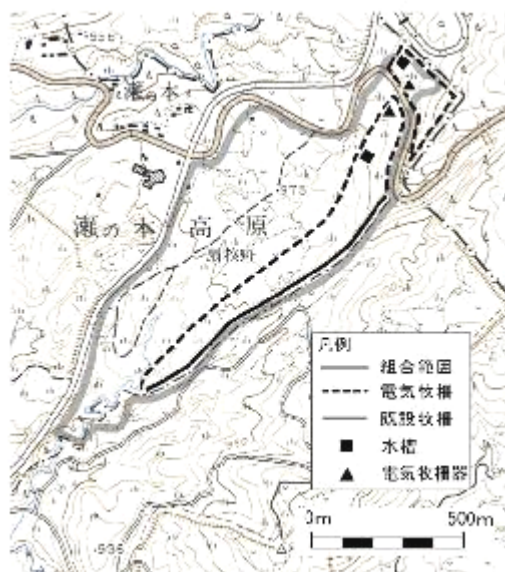
2 回目 8 月～11/10 5～6 頭放牧

- ・ 7 月に草が不足したため、20 日間放牧停止。
- ・ 二つに分けていた牧柵を一つに合併。

管理状況

入牧中のトラブル

- ・ 7 月初旬に草がなくなり牛が脱柵したので、一時放牧停止。



牧野の概況：総面積：210ha うち野草地 150ha (71.4%) 牧草地 60ha (28.6%) 林地 0ha (0.0%)
組合の概況：入会権者数：27戸 うち有畜農家数 4戸 (14.8%) 資料：H10年阿蘇郡牧野および牧野組合現況調査

【効果】

草量の変化

平成 13 年度

- ・ 輪地内の茅丈は 100～200 cm
- ・ 残存比率は 25%程度
- ・ 輪地内外の茅丈はあまり差がないが、輪地内はかなり食い詰められ茅株間に隙間あり

実施後の輪地切りの必要性

- ・ 輪地切りは実施したが、労力は例年の 1/3 程度に軽減された。



・ H14.11 月、茅の高さは約 1.5～2.0m



・ 輪地内 (写真右側) は茅株間にかなり隙間がある

【組合長の評価】

全体評価

- ・ 1 年目は、草量が多かったため食い詰めるまでには至らず輪地切りは実施したが、労力は前年の 1 / 3 で済み、予想以上に効果があった。
- ・ また、草量が減少したため、野焼き時の火のコントロールがしやすくなり延焼の心配が少なくなった。
- ・ 2 年目も順調に草を食べており、防火帯の役割を果たしている。

今後の継続意向

- ・ 輪地切り省力化効果があったので、来年は範囲を広げて実施したい。

G . 間瀬野牧野組合（南小国町） - 平成 14 年度 モーモー輪地切り実施地

設備

電気牧柵設置延長

平成 14 年度：3.000m（ソーラー：2 器）

水場

平成 14 年度：1 箇所（ポリアップ：500m、インフュージョン：1 器）

- ・ 溪谷があるが、放牧地内に湧水なし

放牧区

平成 14 年度：1 牧区

- ・ 水源涵養林に隣接、面的に広く電気牧柵を設置

放牧状況

実施期間：H15. 5/中旬～**

- ・ 5/中旬～約 3 ヶ月：70～80 頭

管理状況

- ・ 監視員が毎日見回る

入牧中のトラブル

【効果】

草量の変化

- ・ シダ類が残っているが、その他は 10～20 cm 程度に食い詰め。

実施後の輪地切りの必要性

- ・ 大観峰あたりからの野焼きの延焼を止める位置にあり、当牧野で火入れをすることはなく、輪地切りはしない。
- ・ 野焼き前に電気牧柵を撤去しない場合は牧柵に火がかからないよう下草刈りを行う。



・ 森林境に面的牧区を設定

【組合長の評価】

全体評価

- ・ 水源涵養林への延焼を防ぐため、牧野全体の火の勢いを抑えることが必要であり、広く牧区を設置した。
- ・ 野焼き時に自牧野では火入れは行わないが、北外輪南部の牧野からの延焼をここで止めるため消火活動を行う。モーモー輪地で重点的に草を食わせることで草量が減り、消火作業はかなり軽減されると思われる。野焼き時の安全性が高まり安心している。
- ・ 広く牧区を設定したため、牛のストレスもなく草にも良い。

今後の継続意向

- ・ できれば続けたい。溪谷があり水が豊富に見えるが、実は水がない所であり、水場が一番の問題となる。電柵設置の必要性は低く、永久牧柵設置で行うことも考えられる。

その他

- ・ 今後も牧野を守っていかなければならないが、組合内では分割や観光地化したいという意見もある。しかし今のまま、ありのままであることが一番の観光だと思う。今でも勝手に入ってくる人が多く、ゴミの問題などがある。

設備

- ・ 電柵設置延長：3,000m
- ・ 水場：1箇所、ホヰパイ：200m
 エンジンポンプ：1台
 自然湧水あり

放牧区

- ・ 複雑な輪地形状の箇所を牧野を仕切るかたちで電柵を設置。

放牧状況

- ・ 30頭入牧してローテーション。

管理状況

- ・ ローテーションは全員（7人）で判断。
- ・ 監視員はおらず、牧草を入れる際に管理。
- ・ 電柵の線を高めに張ったため、電柵下の草も牛が食べるため、草刈りはしなくてすんだ。

入牧中のトラブル

- ・ 特に問題はなかった。

【効果】**草量の変化**

- ・ 輪地内の草丈は1m位あるが、草の量は輪地外と比較して1/3程度に減少。

実施後の輪地切りの必要性

- ・ 輪地切りはしなくても大丈夫だと思うが、カヤが高い所はモアで刈る。

【組合長の評価】**全体評価**

- ・ 電柵の設置場所は再検討する必要がある。
- ・ 水場も牛の動きが悪いので検討する必要がある。

今後の継続意向

- ・ はじめた以上続けていきたい。
- ・ 他にもできそうな所はあるが水の問題がある。

その他

- ・ 実施地は県から借りた土地で、湯田牧野組合のなかの、湯田和牛生産組合（7人）が管理している。
- ・ 県とは毎年の契約のため、計画的な展開が難しい。
- ・ 本牧野の野焼きは組合員全員で行う。生産組合の野焼きは7人で行い、ボランティアは導入していないが、全員が農家であり問題はない。人手より機械が欲しい。



牧野の概況：総面積：200ha うち野草地 130ha（65.0%） 牧草地 39ha（19.5%） 林地 31ha（15.5%）

組合の概況：入会権者数：76戸 うち有畜農家数 16戸（21.1%） 資料：H10年阿蘇郡牧野および牧野組合現況調査